

2008年度(平成20年度)学校評価自己評価表

最終更新日	2008年(平成20年) 4月18日
-------	--------------------

校番 23	福山市立城西中学校
-------	-----------

1 学校教育目標

校訓 「挑戦・絆・創造」  
『自主性を確立し、心豊かで主体的に行動する生徒の育成』

2 経営理念

(1) 地域社会における自校の使命(ミッション)

学校教育目標『自主性を確立し、心豊かで主体的に行動する生徒の育成』に基づき、「安心して明るく生き生きと生活できる学校」をめざし、生徒が「来て良かった」、保護者が「行かせて良かった」、地域が「あって良かった」、職員が「勤めて良かった」と言えるような、全ての人々から愛され必要とされる学校づくりをめざす。

(2) 使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像(ビジョン)

- 1 基礎・基本の確実な定着と、生徒の個性・能力・特性を伸ばす教育の充実。
- 2 「絆づくり」を通して、豊かな心を育て、「心身ともにたくましい生徒」の育成。
- 3 教職員一人一人が指導力の向上を図り、わかりやすく意欲の持てる授業づくりの創造。
- 4 めざす生徒像  
課題克服に向け、意欲をもって学ぶ生徒。  
友だちを大切に、思いやりの心を育む生徒  
自ら考え、責任を持って行動する生徒。

3 自校の現状分析

- 1 基礎基本定着状況調査の結果は、3教科とも県平均を下回っている。学習習慣の確立と基礎・基本の確実な定着が課題であり、個に応じたきめ細かい指導も必要である。
- 2 校内授業研究体制が不十分であり、生徒の学習習慣の確立とともに指導方法の工夫改善に努める必要がある。
- 3 教職員が一層の指導力向上に努め、学校が組織として機能する組織づくりが必要である。
- 4 生徒同士、生徒と教職員の信頼を深め、絆を強めるような活動を充実させ、生徒指導上の課題を克服する。
- 5 不登校生徒が昨年度9名(クラス平均1名)である。チーム支援と学校体制で取り組んでいく必要がある。
- 6 「書く」能力に課題がある。全教育活動を通して取り組む必要がある。
- 7 生活規律に課題がある。「挨拶」と「授業規律」を起点にして取り組む。

4 研究主題

(1) 研究主題

「学習習慣の定着を図り、生徒が主体的に学習する授業づくり」

(2) 研究指定

指 定	事 業 名 等	期 間
県	生徒指導研究推進校 「不登校」	2008年(平成20年)
県	中学校2・3年生への習熟度別指導「国語」「英語」	2008年(平成20年)
市	少人数指導推進支援事業「数学」	2008年(平成20年)
市	教育研究支援事業「特別活動」	2008年(平成20年)～ 2010年(平成22年)

5 今年度の重点目標と設定理由

重点目標	設定理由
基礎・基本の確実な定着	確かな学力の育成は、学校教育の使命である。指導力の向上を図り、わかりやすく生徒が意欲の持てる授業づくりを創造していく必要がある。
お互いの信頼を深める絆づくり	「絆づくり」は、本校の校訓であり、生徒の健全な育成と信頼される学校づくりに向け、生徒指導の基盤として捉えている。

6 評価基準

評価・指標評価	基 準	
A・a	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
B・b	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた
C・c	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた
D・d	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
E・e	40%未満の達成度	目標を達成できなかった

・ 自己評価(中間)の基準は、10月20日までの計画に対する達成状況とする。

## 7 目標・評価項目・指標等の設定と評価

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	( ) 評価	評価項目・指標等 ( 成果 取組み 成果と取組み に着目 )	( ) 指標 評価	評価項目・指標等 改善方策	短期(中期)経営目標 の達成状況
確 かな 学 力	2	学習習慣の定着 と基礎・基本の徹 底を図る。		新規	学習規律を整える		学習環境を整えてから、授業を始める。 (机、ゴミ、授業道具)			
				見直し	授業中生徒全員がノ ートを取り、落ち着 いて授業をする。		全員がノートに書く。定期的に点検し、指 導・評価をする。ノートを書く生徒90%以 上。			
				見直し	家庭学習をする生徒 80%以上にする。		組織的に宿題を出し、宿題を提出する生徒 を80%以上にする。			
	2	豊かな表現力の 育成を図る		継続	生活記録「坂道」の指 導を積極的に行い、書 く力を身につける。		「坂道」の提出率を80%以上にし、コメン トを記入しながら、書き方の指導する。			
継続	学校行事・集会等で、 自分の考えや意見を まとめ、わかりやすく 発表できる。				学校行事、集会の意見発表は、原稿を見な いで行う。(90%以上)					
豊 かな 心	2	お互いの信頼を 深める「絆づく り」と体験活動の 充実を図る。		見直し	自主的・自治的な体験 活動を仕組み「絆づく り」と自己指導能力を 育成する		各種体験活動を生徒の自主的な活動を仕組 み、記録と自己評価をさせる。			
				新規	不登校生徒の前年度 比60%以下にする。		不登校生徒に対し、チーム支援を実施し、 2日欠席は電話連絡、3日欠席は家庭訪問を する。			
	2	健康教育の充実 を図る。		新規	基礎的体力の向上に 向けた実践を行う。		体力テスト個人記録カードを活用し、年間 を通じた計画的な体力づくりを行う。 県平均を上回る種目50%以上。			

7 目標・評価項目・指標等の設定と評価

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	( ) 評価	評価項目・指標等 ( 成果 取組み 成果と取組み に着目 )	( ) 指標 評価	評価項目・指標等 改善方策	短期(中期)経営目標 の達成状況
豊かな心	2	子どもの自立を育成する積極的な生徒指導の充実を図る。		新規	規律3要素(挨拶・時間・環境)の徹底を図る。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主的に挨拶できる生徒80%以上。</li> <li>・遅刻をしない生徒90%以上。</li> </ul>			
力量ある教職員	2	指導力や専門性を高める研究・研修・実践力を図る。		継続	意欲が持て、わかる「授業づくり」を推進する。		指導主事を招聘し、各教科1回以上授業研究をする。  各種研修会へ年3回以上参加し、A4用紙1枚にて、まとめの報告をする。			
				見直し	学校教育目標を達成するために、組織的に動ける体制づくりを行う。		運営委員会を月2回開催し、組織的な教育活動を展開する。各主任は企画書を作成する。			
市民から信頼される学校	2	校長を中心として組織的に行う学校マネジメント		継続	学校の取り組みや様子を積極的に情報公開する。		1週間に1回以上通信等を発行する。  1か月に1回ホームページを更新する。			
				継続	効果的な校務組織と組織的な運営を確立する。		明確な校務分掌表を4月中に作成し、各学期末に自己評価を行う。			
							起案システムの確実な実行をし、各主任の役割・責任を明確にする。  「城西中教育推進計画」ファイルを今年度中に作成する。			